



ジュニア大使、ブルネイ班

～親日の国、ブルネイを訪ねて～

「第34回夏期ジュニア大使友情使節団・ブルネイ班」は、今回初めての試みで、インターナショナル・スクールでのサマーキャンプを中心に英語による国際研修を行った。7月21日から31日までの11間の様子を報告する。

◇

【7月21日】結団式と大使館訪問

午前11時に東京・品川に集合し、結団式と「国際マナーとエチケット」など講義を受けた後、港区にある駐日ブルネイ大使館を表敬訪問。土曜日にもかかわらず、カミラ・ハニファ大使、イアン・マイディン書記官そしてご担当官のアットホームで温かい歓迎を受けた。大使公邸シェフのお料理はブルネイの伝統的なエビビーフン、カレークレープや菓子等、どれも大変美味しく、団員は皆、お代わりをしていた。スライドによるブルネイの紹介や民族衣装の説明もいただいた。また、天皇皇后両陛下がブルネイ国王即位50周

年のお祝いに館を訪れたときに書かれた直筆サインも間近に見ることができ、約2時間の大変貴重な経験となった。

【7月22日】日本からブルネイへ

羽田空港へ移動後、事前研修として、挨拶と役割決め・海外安全対策・健康管理・英語ワンポイントレッスン、そして日本文化紹介の練習と、初めて出会った団員は皆で協力し合った。

23時過ぎの便で経由先のシンガポールには翌朝5時前に着いた。約4時間後の9時に出発、11時にブルネイ国際空港に到着。日本からは乗換時間も含めて12時間。熱波の日本と南国のブルネイと暑さはほとんど変わらなかった。時差は日本が1時間進んでいる。こじんまりとした空港で、機内で出入国カードをもらえなく記入し、ゆっくりながらスムーズに通関はできた。

睡眠時間が足りないながら、ジュニア大使たちは元気に市内視察のバスに乗った。まずは昼食。マレーシア・インドネシア料理のビュッフェスタイル。それほど辛くなく皆、思い思いに食す。

最初の訪問先は、スルターン・オマール・アリ・サイフディーン・モスク。入口でそれぞれの身長に合ったイスラム服をお借りして入室、イスラム教の普段の生活に触れるまたとない機会となった。その後、いよいよ学校寮へ。

【7月23日～27日】サマーキャンプ

同じグループには、ブルネイ、韓国、

中国、オーストラリアの生徒。活動は、サッカー、水泳、テニス、クリケット、バスケットボール、バドミントン、英国の先生方が指導し英語で交流。



午後は以下、戶外活動。

- ①伝統的な集落訪問と刺さない蜂のはちみつ採取
 - ②水上集落の訪問、ボートよりマングローブに住む、テングザルを眺める
 - ③ナイトマーケットの見学と夕食
- その他、夕刻は本のカバー作りや布バックの絵付けを専門家より英語で実習。

【7月24日】日本国大使館表敬訪問

加藤元彦大使より、日本とブルネイの関係などのお話を伺う。「外交で困ったことはありませんか」などの質問にも一つひとつお答えいただいた。

【7月28日～30日】ホームステイ

ブルネイの家庭に一人一家庭でホームステイ。今年で72歳、50周年を迎えるハサナル・ボルキア国王にお目にかかれた団員もいた。

英国英語で活動し、1週間後には聞き取りが皆、各段に良くなったようだ。

世界万華鏡

国際交流・コーディネーター おやま 小山 まゆみ 麻由実 シリーズ3 ジンバブエ

2015年3月31日から約3年間、夫と世界一周新婚旅行に出かけました。今回は、日本ではあまり知られていない、アフリカのジンバブエをご紹介します。

◇

ジンバブエ共和国は南に南アフリカ共和国、東にモザンビーク、西にボツワナ、そして北にザンビアとタンザニアに囲まれた内陸国です。面積は日本より少し広い39.1㎞²。大自然を国立公園やサファリ区域で体感できます。

2016年2月1日、私たちはグレートジンバブエ遺跡を目指しました。あまり知られていない遺跡ですが、世界で2番目に大きい石の遺跡で世界遺産です。(1番はエジプトのピラミッド)グレートジンバブエ遺跡の拠点マシングという町で、首都ハラレから約300km南にあります。

我々はザンビアから陸路でマシングを目指し、ミニバスを乗り次いで行きました。アフリカでミニバスと言えばハイエースですが、ここでは7人乗りの乗用車に14人ほど押しこめられながら、約6時間の道のり。9ドルしかかかりませんが、アフリカならではの移動です。翌日マシングの町から路線バスで遺跡へ。運転手に遺跡の近くで

降りて欲しいと告げると、何と他の乗客に説明し、路線から外れて遺跡の前で降りてくれました。アフリカ人のこういう優しさが大好きです。

炎天下の中を少し歩き、入口に着いたものの人影はなく、世界遺産なのに閑散としていました。小屋で涼んでいた公式ガイドに案内を頼みました。



国名の「ジンバブエ」とはもともと「石の家」という意味。この遺跡は石で作られた国王の住居です。国旗の鷹もこの遺跡に描かれています。東西・南北がそれぞれ1.5kmで、650年頃から作られたというのですから驚きです。

遺跡は大きく三つ。一つは「アクロポリス」。王様が居住した場所で儀式等が行われていたそうです。標高1000mで遠くからは巨大な岩山に見えます。近づくと大きな岩がいくつも並んでい

ます。巨岩の間の細い坂を30分ほど登ると頂上に到着。石の囲いは必ずお辞儀をして入るように低く作られているそうです。自然の巨岩と人間が積み上げた石が絶妙なバランスで融合していて本当に芸術的、美しいです。

二つ目は「谷の遺跡」、数多くいた王様の妻子の生活場所です。この付近にはたくさんのアロエの木があり、女性たちはこのアロエを美容のために使っていたそうです。

三つ目は「エンクロージャー」、巨大な丸い遺跡です。第一婦人の住居で儀式にも使われていたそうです。蛇の模様があり、数メートルにも積み上げられた石壁は圧巻です。

歴史博物館もあり、ここで出土された代々の国王を象徴する8個の鷹の彫刻、四つの大きささまざまな石で四季を表し、影の長さで時間を認識した石時計もあり、高度な文明を感じました。ぜひ訪れて欲しい穴場の世界遺産です。

平成30年8月17日発行
 一般社団法人 国際フレンドシップ協会
 〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
 麻布台ロイヤルプラザ703
 発行責任者：及川 伊佐子
 編集：事務局 03(3582)3021
 印刷：音和堂印刷株式会社